海外 CASE 14

クック川

Cooks River

オーストラリア

クック川（流域面積100㎢）は、オーストラリア最大の都市・シドニーの南西部に位置し、シドニー空港のすぐ南側をかすめてボタニー湾へと流れ込む都市河川です。19世紀前半から農業や畜産業を主とした流域開発が行われ、その後工業化と激しい都市化が進んだ結果、かつて生育していた植生の消滅、また生活排水や工場廃水の流入による水質汚濁など、長きに渡り劣悪な河川環境に悩まされてきました。

クック川流域内には人口約50万人が居住し、また10万を超える商業・工業施設が立地しているため、水質の悪化、ゴミの不法投棄、コンクリートや矢板による河岸の人工化、乏しい生物多様性、河底への重金属残留、水辺の資材置き場としての利用など、様々な都市河川共通の問題を抱え、これらはクック川の景観を損なう原因にもなってきました。加えて、流域内の土地利用や天然資源の管理には、13の自治体、17の州政府機関、二つの連邦政府機関と多数の土地所有者が関与していますが、連携のための法制度が整備されておらず、持続的な流域管理や環境保全を推進する上での障害となってきました。

1970年から1980年代にかけて、州政府が導入した厳しい環境規制により工場廃水が飛躍的に削減されるとともに、水辺へのアクセス性向上を目的として、地元自治体が、かつての川沿いのごみ集積場を遊歩道や自転車道へと整備し、またコンクリート護岸沿いに植生を施すなどの取組みを積極的に行いました。また1990年代半ばには、州政府の支援を受けたクック川流域内の複数の自治体が、クック川流域の生態系、親水性、社会価値をより高めるための水辺公共空間の再生に向けた計画づくりに共同で取り組み、1997年に「クック川水辺戦略計画（Cooks River Foreshores Strategic Plan）」を策定しました。この計画では、地域計画と整合を図る形で、クック川流域の水質、護岸整備、親水性、生物多様性、文化伝承、地域教育、住民参加など多岐に渡る管理の方向性が示され、また1998年にはこの計画を遂行するための調整役として「クック川水辺ワーキンググループ（CRFWG: Cooks River Foreshores Working Group）」が組織されました。

矢板撤去工事と撤去後の護岸（2008年）

水際の自然再生

現在CRFWGは、地元自治体、州政府機関、大学等と協力し、8つの小流域協議会で構成され、クック川再生に向けた関係者間の調整を図りながら、資金確保を含む様々な共同事業を推進しています。具体的には、水質改善を目的としたゴミの除去装置や生物を利用した雨水の濾過装置の導入、また自然環境の再生に向けては、護岸の多自然化、湿地の再生、灌木再生、魚道整備、地域限定種の繁殖等を行い、これら活動の効果を検証するため、水質や生物の生息・生育環境の変化も継続的にモニタリングしています。さらに、クック川周辺の地域活性化のため、水辺へのアクセス性向上や親水施設の整備、地域教育や住民参加行事の催行などにも取り組んでいます。これら再生に向けた諸活動の財源は各協議会、州及び連邦政府機関から出資され、またその担い手には専門家に加え、流域内の多数の地域ボランティアが参加しています。

クック川の更なる水質改善に向けては、湿地再生や雨水貯留型公園・庭園整備など、河川に流入する栄養塩を低減し生物濾過作用を適用した流域レベルでの保水力向上の取り組みを推進し、またシドニー首都圏で開発された「流域汚濁と生態系の応答モデル」を適用した水質改善計画を進めています。また、ここ数年では、州政府の資金援助のもと、協議会メンバー、専門家が各自治体職員とともに小流域レベルの管理計画を共同で策定し、流域全体でのプログラムを各現場へと確実に浸透させるための取組みを続けています。この中では、地域ボランティア主導で地域のあらゆるステークホルダーを教育する川の学習ツアーを企画するなど、地域が主体となってボトムアップで河川の健全化に取組むプログラムを実施しています。

こうしたクック流域全体での活動の発展を受け、2011年７月からは、CRFWGがより権限と資金力及び職員数を持つ新たな公的組織へと再編されることが決まっており、この新組織を通じ、流域全体及びそれを構成する小流域レベルが更に連携したクック川再生の取組が期待されています。

小流域単位の計画策定や川の学習ツアー（2008年）